

競技注意事項

1 競技規則について

2020年度（公財）日本陸上競技連盟競技規則、並びに本大会申し合わせ事項による。

2 招集について

①招集所は設けず、全て競技場所での現地招集とする。

スタジアム内への競技者の出入口は第3ゲート（1500mスタート地点付近）のみとする。

競技者は招集開始時刻に集合し、できる限り三密状態を避けること。

②招集開始及び完了時刻は下記のとおりであるが、詳細は競技日程に記載する。

③招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を棄権したものとして処理する。

種 目	招集開始	招集完了
トラック種目	20 分前	15 分前
走高跳・走幅跳・三段跳	40 分前	30 分前
砲丸投・円盤投・ハンマー投・やり投	40 分前	30 分前
棒高跳	1 時間 15 分前	1 時間前
混成競技（トラック）	20 分前	15 分前
混成競技（フィールド）	30 分前	20 分前

④招集完了5分前までに競技場所（スタート地点・ピット）で待機し、最終点呼を受ける。

その際アスリートビブス（ナンバーカード）、スパイクシューズ等の点検を受ける。

⑤同一時間に他の種目と兼ねて出場する者は、競技者係及び当該審判主任に申し出て了解を得ること。

⑥混成競技については、係員による誘導等を行わない。また混成選手控え所は別途指定する。

3 アスリートビブス（ナンバーカード）について

①アスリートビブス（ナンバーカード）は胸と背に1枚ずつ確実に付けること。

女子選手のセパレートタイプのユニフォームについては、ナンバーが審判から見えるように4ヶ所で確実に留める。

ただし、跳躍競技に出場する競技者は、胸または背に1枚つけるだけでよい

②トラック種目では、腰ナンバーを右腰後方につけること。

腰ナンバーは第3ゲートにて配布するので、競技者各自が持ち出し、競技終了後は各自の責任において持ち帰り、処分すること。競技場内や公園内等に捨てないこと。

③ランニングシャツは、確実にランニングパンツの中に入れること。

4 競技場で使用するスパイクシューズについて

スパイクピンの長さは、9mm以内とする。ただし、走高跳・やり投は12mm以内とする。いずれの場合もスパイクピンの数は、11本以内とする。

5 棄権について

出場種目を棄権する場合、本大会においては特に申し出なくとも良い。

招集完了時刻に競技者が競技会場に来ておらず、同一時刻に他種目に出場する旨の連絡もない場合は、棄権したものと見なす。

6 練習について

①練習会場は第2陸上競技場を使用し、下表の割り当てに従って安全に利用すること。

1～2レーン	中距離・長距離・競歩の周回練習 ジョグは不可
3～6レーン (ホーム)	短距離 (直線流し、SD、加速走等)
3～6レーン (ホーム以外)	リレー (リレー使用時以外はホームと同様)
7レーン (ホーム)	100mハードル
7レーン (第1曲走路～バック)	400mハードル (女子)
8レーン (ホーム)	100mハードル/110mハードル
8レーン (バック)	安全確保のため使用しない。
9レーン (ホーム)	110mハードル
9レーン (第1曲走路～バック)	400mハードル (男子)
9レーン外側 (ホーム以外)	ジョギング
フィールド内芝生	投擲実施時以外は使用可 メディシンボール使用は限定区画内のみ
跳躍ピット	Aピット使用可 (係員の指示による)

②第2競技場の雨天走路はジョギングと体操のみ使用を許可する。使用にあたっては係員の指示に従うこと。また三密状態とならないように注意すること。

③練習に際しては競技役員の指示に従って安全に練習すること。

④練習会場の開放時間・場所については、栃木陸協 Web サイト等でも別途提示する。

⑤投てき練習については、競技場所での競技前の練習試技のみとする。

⑥陸上競技場外の総合運動公園内園路はジョギング程度なら可とする。(ただし集団での走行、リレーのバトンパスをしながらのジョギング等は禁止とする。)

選手・関係者及び公園の一般利用者の安全確保のため、ジョギング以外の練習は禁止する。(メディシンボール投げやハードルを用いた練習等も禁止。)

⑦第2競技場の利用時間は17時30分頃までとする。これ以降の練習は、スタジアム内で行う。ただし、当日の長距離レース(ナイター)に出場する選手のみ利用とする。

⑧スタジアム内の雨天練習場は本競技会においては使用不可とする。

7 競技者の入退場について

スタジアム内競技場所への出入口は、第3ゲート(1500mスタート地点付近)のみとする。スタジアム内競技場所への出入りは競技者のみ許可する。付添人・指導者等の入場は不可。競技者は第3ゲートの係員にアスリートビブス(ナンバーカード)を提示し、入場の許可を得ること。

トラック競技に出場する競技者は、競技開始前にスタート地点付近に荷物を置き、競技終了後は競技の妨げとならないよう、荷物を取りに行くこと。荷物をとった後も競技の妨げとならないよう、第3ゲートから退場すること。

フィールド競技者も他の競技の妨げとならないよう、係員の指示に従って入退場すること。

8 トラック競技の組・走路順、フィールド競技の試技順等について

①トラック競技の予選の組・走路順、フィールド競技の試技順は主催者が抽選し、プログラムに示すので、審判員の指示に従うこと。

②リレー競走に出場するチームはリレーオーダー用紙を作成し、各ラウンドの第1組目の招集開始時刻の1時間前までにTICに提出する。リレーオーダー用紙はTICで配布する。

③リレー競技に出場するチームは、原則として同一ユニフォームで参加しなければならない。

④タイムによる次のラウンドに進む出場者の決定については、次のとおりとする。

同記録があり、レーン数が不足する時の処置は、写真判定主任が0.001秒単位の実時間を判定して出場者を決定する。それでも決定できない時は抽選とする。(競技規則第167条)

9 跳躍競技（高さ・踏切板の距離）について

（※審判長の判断で、変更することもある。）

種目		練習	試 技
走高跳	男子	1.65	1.70～1.75～1.80～1.85～1.95～2.00～2.05～2.08・以後 3cm
		1.90	
	女子	1.35	
		1.50	
十種走高跳	1.55	1.60～1.65～1.70～1.75・以後 3cm	
	1.80		
七種走高跳	1.20	1.25～1.30～1.35～1.40～1.43・以後 3cm	
	1.40		

- ①上記以後の高さについては、跳躍審判長の指示による。
- ②第1位決定のバーの上げ下げは走高跳2cm、棒高跳5cmとする。
- ③十種競技の棒高跳の高さについては、現地にて相談の上実施する。
- ④雨天の際は協議の上、高さを変更することもある。
- ⑤三段跳における踏切板の距離については、1部男子は12m・1部女子は10mとする。
2部男子は11m・2部女子は9mとする。

10 競技用器具について

競技に使用する用器具は、検査を受け合格したものについてのみ使用できる。ポールの検査は、招集後現地にて行う。やりの検査については、別途指定する。

検査で合格したやりについては、主催者にて預かり、主催者のものとして使用する。

棒高跳・投擲競技における滑り止め（炭酸マグネシウム）は、本競技会では準備しない。

滑り止めを使う場合は、競技者が各自持参すること。なお、他の競技者と共有しないこと。

11 入賞者と関東選手権大会出場権について

今年度の関東選手権大会（山梨県開催）は中止となったため、本大会で入賞した場合でも、関東選手権大会への出場権は無いものとする。なお、次年度の関東選手権への出場権は、次年度の県選手権の成績により獲得できるものとする。

12 表彰について

選手権者（優勝者）に賞状とメダル、また2位～3位入賞者には賞状を授与する。

表彰式は実施しないため、メダル、賞状の受け渡しはTICにて行う。

なお、2部はオープン種目であるため、競技結果が上位となっても入賞扱いとはならない。

13 競技について

①1部は選手権種目とし、トラック競技は予選及び決勝ラウンドを実施する。（参加者が少ない場合は予選を実施せず、決勝のみ実施する場合もある。）フィールド競技（走高跳・棒高跳以外）はトップ8による6回試技を実施する。

②2部はオープン種目とし、トラック競技はタイムレース決勝のみ実施する。

フィールド競技（走高跳・棒高跳以外）は3回の試技までの実施とする。

③トラック競技は、不正スタート1回で失格とする。

④長距離種目においては競技運営上、下記の所要時間を超えた場合、新しい周回に入れない。

5000m 男子は20分、女子は25分。10,000m 男子は40分、女子は50分。

男子5000m 競歩は30分、女子5000m 競歩は33分。

但し競技運営上、混合レースになった場合は、女子の制限時間とする。

競技運営上、著しく遅れた選手に審判長が競技を中止させる場合がある。

⑤リレーについて

- ア) 1部リレー種目への出場は各団体および各学校1チームとする。
- イ) 2部リレーには各団体および各学校から複数チーム出場することができる。
- ウ) 1部リレーに登録した競技者を、2部リレーに起用することは認めない。
同様に2部チームに登録した競技者を1部チームに起用することは認めない。
- エ) 1部リレーチームの競技者が何らかの理由で欠場し、リレーチームの編成ができない場合、当該団体・学校の競技者で他の1部種目に出場している選手をリレーメンバーとして起用することは認める。ただし2部競技者の起用は認めない。

⑥3000m以上の種目で1回のレースに多数の競技者がいる場合、グループスタートを行う。

⑦5000m以上の種目の給水については、主催者側が給水所と飲料水を用意する。

⑧競技場設備の準備の関係で、投擲種目は第2陸上競技場での実施となる可能性がある。
第2競技場で投擲種目実施中は、その他の競技者等のフィールド内立ち入りを禁止する。

14 その他

①T I C (Technical Information Center) をスタジアム1F正面玄関内に設置する。

T I Cでは、参加団体受付、オーダー用紙の取扱い、競技に関する抗議の受付、プログラム訂正の受付、賞状配布、撮影許可手続き、遺失物保管などの業務を行う。) T I Cにはスタジアム1F外側の正面玄関から入ることとし、スタジアム内側からのアクセスは不可とする。

②競技中の傷病などについては、主催者が応急手当をするが、以後の責任は負わない。

③各チームのスタジアム内待機場所については、栃木陸上競技協会が指定した場所とする。
第2競技場の2Fコンコースは各団体が譲り合って使用すること。競技場外の公園敷地にテントを設置することは一切禁止する。

各チームベンチとして、雨天練習場・更衣室・ダッグアウト等を占領してはならない。

④スタジアム内雨天走路の使用については、本競技会では使用不可とする。

⑤スタジアム内1Fのトイレは、100mスタート付近の正面スタンド内トイレを使用すること。
出入りについては100mスタート付近からの出入りに限定する。

⑥更衣室については、男女ともスタジアム2Fトイレ内の更衣スペース等を使用する。
また第2競技場の更衣室も使用可とする。ただし更衣室内に長時間滞在しないこと。

⑦第2競技場の会議室を整理運動後の休憩場所として開放する。会議室を休憩場所として使用する際は、備え付けの名簿に必要事項を記入すること。ただし長時間滞在しないこと。

15 災害時の避難場所

会場責任者の判断により避難の放送が入るので、避難誘導係の指示に従って落ち着いて行動すること。

16 新型コロナウイルス感染拡大防止に関する事項

①新型コロナウイルス感染拡大状況により、参加申込み完了後に競技会を中止とする場合もある。日本政府または各都道府県による緊急事態宣言が発令した場合などは、県外在住の参加者に対して参加を断る場合もある。その際は栃木陸協 Web サイト等で通知する。

また、競技中に発雷等で天候が悪化した場合は、その時点で競技会を中止する場合もある。

②大会直前に発熱等の症状が出た者は、大会参加を控えること。

③大会に参加する全ての来場者(競技者、指導者、引率者、マネージャーなど)に対し、別紙「大会前体調管理チェックシート」の提出を義務づける。(日本陸連ガイダンスに則った措置とする。)

④競技会開催中に体調の異変を感じた場合は、速やかに代表者や顧問教諭に連絡し、主催者の指示を受けること。

⑤新型コロナウイルス感染防止対応として、無観客での競技会開催とする。競技者の家族、友人・知人などの観客席への立ち入りを禁止する。

- ⑥練習会場、待機場所、更衣室等において極力三密を回避し、手指等の消毒を随時行う。
全ての参加者は運動時以外は極力マスク等を着用する。
- ⑦中高生が学校所属ではなくクラブ所属として参加する場合、クラブ責任者が競技者を引率し、保護者の観客席への立ち入りは禁止する。
- ⑧運動中につばや痰を吐くことは極力行わない。ゴミは自己責任で持ち帰る。
- ⑨発声を伴う応援（集団応援も含む）は禁止する。
- ⑩その他、新型コロナウイルス感染拡大防止に関する対応については、栃木陸協 Web サイト等で周知する。